



滄水会賞メダル

滄水会ニュース

職業能力開発総合大学校同窓会誌

第14号 平成12年7月1日発行

特集 起業家・企業家・ものづくりに学ぶ

その1

企画趣旨

世界経済の急激な変化の中で日本の企業はその存在を賭けて速やかな対応を余儀なくされている。倒産は中小企業に止まらず大企業・金融機関にも及んでいる。企業は一体なにを拠り所に荒波に立ち向い、どのような備えをしなければならないのか。そこで、ベンチャー企業のトップ、企業に勤めるOB、技能を武器に社会的存在感を放つ達人に投稿戴いた。これらが皆様方の今後の活動の羅針盤になればと滄水会ニュースを企画致しました。



起業家に学ぶ

日本電産株式会社
代表取締役社長
永守重信 氏 (会員)



企業家に学ぶ

ヤマハ発動機株式会社
第3工場長
木藤 正 氏 (会員)



ものづくりの達人に学ぶ

有限会社藤里木工所
代表取締役
及川孝一 氏



ものづくり教育の達人に学ぶ

株式会社デンソー
技術技能研修部技能研修3 主任
杉浦 太 氏

滄水会会長就任挨拶

私はこの度、職業能力開発総合大学校同窓会組織である滄水会の会長に就任いたしました。母校を卒業して30年以上を経た今日、世の中は激変を繰り返し、過去と全く違う時代を迎えています。自らが学び過ごした母校のことを振り返る余裕すらない厳しい状況の中で、もう一度同窓会のあり方を考え直し、母校の存在価値の向上なり、更なる発展への支援をできる形に変えられればと全力を尽くす所存であります。何卒よろしくご支援の程お願い申し上げます。



永守重信
(第3期電気科卒)

滄水会賞メダル：このメダルは優秀な卒業生に贈られる滄水会賞の副賞で、植物の芽吹く力と泉から噴出す水の勢いを表現したものです。中村元隆(制作者)

起業家に学ぶ

科学・技術・技能の一体化による創業(その1)

日本電産株式会社
代表取締役社長 永守 重信



(第3期電気科卒)

私は昭和42年(1967年)に職業能力開発総合大学校(略称 能開総合大)の前身である職業訓練大学校(略称 訓大)電気科の第3期生として卒業した。家庭的に決して恵まれていなかった私にとって、仕送りのない学生生活も国からの奨学金等によって、ほとんど不自由なく4年間過ごすことが出来た。学びたい一心で入学した私は、必死に勉学に専念し、よき師、よき友を得て自らの人生を切り拓く基礎づくりが出来たと考えている。

訓大の初代校長の成瀬政男先生は、ことあるごとに「科学・技術・技能の一体化」の訓話を我々にされた。すなわち、物づくりの大切さを教示し、国家の基盤は製造業により成り立ち、物づくりこそ「科学・技術・技能の一体化の産物」と説かれたことに、若き日の私は深い感銘を受けた。卒業後6年間の会社勤めを経て、昭和48年(1973年)の7月、日本電産を設立した時、社訓として定めたものは、この成瀬先生の教えを基本とした「科学・技術・技能の一体化と誠実な心をもって全世界に通じる製品を生産し社会に貢献すると同時に会社および全従業員の繁栄を推進することを旨とする」であった。

かくして、小学校4年生の時の作文で、同級生のほとんどが将来になりたい職業として機関士や車掌、そして看護



日本電産(株)滋賀技術開発センター全景

婦と書いていた中で唯一、「会社の社長」と書いて、担任からクレームをつけられた私の夢が現実となり、日本電産はスタートしたのである。男の人生にとってロマンを求めることの大切さ、そして物づくりの喜び、この両方を新会社で実現してみたいと訓大卒ばかりの28歳、27歳、26歳、24歳の4人の若きメンバーは、これから始まる苦難の道を忘れ、元気いっぱいであった。日本電気と松下電産を足した社名かと揶揄された零細企業・日本電産は小型精密モーターメーカーとしてスタートを切った訳であるが、世の中はそんなに生易しいものではなかった。しかし、創業時に定めた成功への三大精神というべき仕事への「情熱、

Voice 卒業生からのメッセージ
滄水会、新生能開総合大の発展を祈ります



成東町保健福祉センター

株式会社
内田設計事務所
千葉県山武郡成東町姫島522-1
〒289-1327
TEL 0475-82-3160
FAX 82-3194
代表取締役
一級建築士
内田久雄 (建築科8期)

Voice 卒業生からのメッセージ
卒業生の一層のご活躍を祈ります



株式会社 **アーバネット**
株式会社 **アーバネット設計連合**
代表取締役 **服部信治**
第10期建築科卒
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-24-7
ルネ御苑プラザ1220号
TEL:03-3351-5541 FAX: 03-3351-5549



日本電産(株)主要製品群

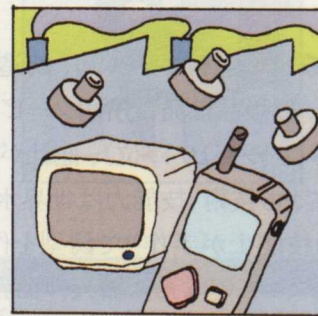
熱意、執念」、一生懸命働く「知的ハードワーキング」、そしてスピード感ある「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」を全社員で実践し、この26年余で1000倍を超える成長を遂げて、今や世界最大の小型精密モーターメーカーとなり、日本電産グループ60社での売上約3000億円、そして38000人の従業員が全世界で働く企業集団に発展してきている。

創業以来より、かたくなに守ってきていることは物づくりへのこだわりであり、技能向上への執念である。日本企業の本物の強みは、科学と技術に技能を付加し、3つを一体化させた物づくりを行うことと考えており、我が社が誇る世界一薄いモーターや世界一軽いモーターといったものは単なる科学と技術の一体化だけではなく、技能向上への果てしない努力なしには実現しえないものであったろう。決して技能を科学・技術より軽んじたり、他社任せにすることなく、自社で人材の育成に力を入れ、技能の継承に全力を尽くすという経営方針なくして今日の日本電産の成長発展はなかったと思っている。

今や世の中は、IT革命時代と称し、インターネット流行りであるが、こうしたブームの陰に携帯電話をここまで小型化させてきた電子部品や、パソコンを薄く軽くしてきた小

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌)型モーター等の機構部品の実現があつてこそ、華々しいIT革命が起きているということを知っている人はどれぐらいいるだろうか。こうした部品の開発には、日本が得意とする物づくりの高度な技能者の活躍を忘れてはならない。

これから先の日本経済の発展のキーを握るのは、こうした物づくりをどこまで重要視し、保存していけるかであるが、どうも最近の傾向を見るに、若者を中心に技能軽視の傾向が見られる。物づくりの喜びを知らず、全て「お金ありき」で価値判断をする時代となるならば、「物づくり日本」の衰退を意味するものであり大変懸念される事態でもある。物づくりが弱体化した国の通貨は必ず安くなるという過去の歴史的証明を忘れては、日本国の将来は誠に暗いものになると心配しているのは私だけではあるまい。こうした時代にこそ、能開大が果たす役割の大きさを知り、続々と有為なる人材が輩出されんことを期待するものである。



企画のねらい

創業26年で38000人以上の従業員の頂点に立つ日本電産株式会社の創始者永守重信氏に創業の苦労とその成功のメカニズムを3回に渡って投稿いただく。アントレプレナーの共感を戴ければとを考えます。

Voice 卒業生からのメッセージ
能開大から能開総合大へ更なる発展を願う

TREND OF DRAMATIC MATERIAL
不二高株式会社

代表取締役社長 **高島 規嘉**
第5期木材加工科卒

〒410-0871 静岡県沼津市西間門15-1
TEL: 0559-24-2000(代)
FAX: 0559-24-2062

Voice 卒業生からのメッセージ
滄水会の益々の発展を祈念します

すえ永く美しいUV塗装
株式会社三協産業

代表取締役社長 **河野 益巳**
第10期木材加工科卒

本社 広島県福山市柳津町2406-2 TEL: 0849-33-3371
第1工場 広島県福山市南松永町4-11-4 TEL: 0849-33-4902
第2工場 広島県福山市南松永町3-4-30 TEL: 0849-33-0203

企業家に学ぶ

製造第一線よりの御報告

ヤマハ発動機株式会社
第3工場長 木藤 正



(第6期鑄造科卒)

大学卒業後早 30 年になります。当時を振り返りますと製造第一線で力を試したい、鑄造技術者として一人前になりたいと民間企業に望んで飛び込んでいきました。兄弟のように過ごした同級生7名も、同じ思いから民間企業・研究所に入り、それぞれの分野で大活躍をしていることを嬉しく誇りに思っております。この間の経験をご紹介しながら、技能について思うことを述べさせていただきます。

当初は(株)日本鑄鋼所という、鑄造専門メーカーに入りました。取扱品は発電所用タービンケーシング・インペラー等(1トン~10トン位)、他社が真似の出来ない物を作っており技術・技能力は世界水準であったと思います。1級技能士が手作りで鑄型を作り、鋼を溶解し鑄物を作っていく姿は正に職人の世界で、芸術品を作っている様なものであったと思います。業界誌等で匠・神様と紹介されるような人々から(入社 1970 年当時、国内経済は好景気に沸いており、鑄造業界に入社する技能員は減少していた。技術スタッフとして入社した私に、彼等が掴んだ製造の極意・技を伝承しようと手取り足取り教わった)教わり短期間で極意まではいかないまでも技を修得できた。例えば鋼を溶解した



モーターサイクル

色で 1600℃近いところにある温度を±4℃以内・破面を見ればC量0.3%以下のものを±0.02%以内で当てる能力を身につけました。これ等は現在の測定機器をもってしても困難な精度なのです。私自身も 25 才で1級技能士試験に合格し、当時一番若い1級技能士誕生と紹介され嬉しく思ったことを思い出します。紹介したような素晴らしい会社でありましたが、その後の産業構造の変革に対応できず、最終製品を持たない専門メーカーの弱みから最近消えていきました。

私自身は 29 才の時に、更に鑄造を極めたい、鉄の

Voice 卒業生からのメッセージ
滄水会、新生能開総合大の発展を祈ります

木製家具・建材の高級塗装

リッ ワ コウ ゲイ
立和工芸

代表取締役 **増谷喜伯**
第10期木材加工科卒

〒725-0013 広島県竹原市吉名町宗越4514-1
TEL: 0846-25-1166
FAX: 0846-25-1192

Voice 卒業生からのメッセージ
卒業生の一層のご健闘を祈ります

DAI **大栄工業株式会社**
一級建築士事務所 建築部・不動産部
(協同組合 匠の会会員)

代表取締役 **尾身 嘉一**
第1期建築科卒

〒162-0065 東京都新宿区住吉町11-20
TEL: 03-3359-0391 FAX: 03-3353-5917



高品質で美しい鋳造部品

次はアルミを勉強しようと、ヤマハ発動機(株)に転職しました。御存知かと思いますが小型エンジン・FRP技術を軸とした商品(モーターサイクル・船外機・ボート他)を展開しており、連結会社数で国内33社、海外45社を数え、国内より海外で有名な会社です。幸いエンジンは重量比で70%位が鋳物で出来ており、私も鋳造屋の活躍するところは多くなっております。私の入社時には、ほぼ0の状態からアルミ 2000 トン、鋳鉄 500 トンの工場に成長する過程に関わったことを幸運に思っております。生産設備、品質管理技術、生産管理システム等世界一流のものだと信じています。生産設備は自動化・高度化が進むなか表面的には技術・技能の垣根は無くなってきています(技能者が育たないので技能を設備・型に置き換え様としているが簡単ではない)。前段で書いた技能能力があれば更に素晴らしい工場になるはずです。

この間、海外工場の設立にも数多く関わりました、今では欧州1・アジア5ヶ所に鋳造工場を持っております。従来は消極的進出でしたが、昨今はより戦略的な進出に様変わりしております。

ブラジル・アマゾン川中域のマナウスという町に鋳造工場を作った経験をお話しします。テレビ・書物で得た知識で、作業者の教育訓練を一番心配しましたが、現地人は「勘」が良く、6ヶ月の教育訓練後に生産に

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌) 従事することができました。最近の若い人より彼等の方が器用なのには内心びっくりしました。子供の頃より日本人は手先が器用と信じておりましたが・・・これは東南アジアでも同じ事で、器用と言うことは子供の時に如何に遊ぶか、手先を動かすかで決まると考えを変えました。技能五輪でも、かつては日本人が多く優勝していたが、最近ではアジア勢にお株を奪われており、技能の世界では彼等に負けてしまうのではと危惧しております。

最後に日本のアイデンティティーを何に求めていくのかですが、昨今の経済状態を見ていると、IT関連しか元気がないようで、「ものづくり」から「ソフト化」「ネットワーク化」へのシフトに将来があるような構造になっているが本当でしょうか。我々の先輩が残してきた技能の大切さを忘れ「ソフト化」「ネットワーク化」一辺倒では何かおかしいと感じています。私自身は現場「ものづくり・技能」を大切にしながら、大競争時代に勝ち残っていこうと考えております。



企画のねらい

ヤマハ発動機株式会社の木藤 正氏には企業の中で、もの作りに生涯の夢をかけ海外工場も立ち上げた経験を基に、真に大切にすることはなにかを投稿戴いた。

Voice 卒業生からのメッセージ
物造りに、学んだことを生かしています

扶二工業株式会社

代表取締役 堤 末彦

第11期機械科卒

〒520-2351 滋賀県野洲郡野洲町富波甲311

TEL: 077-587-0528 FAX: 077-587-0593

Voice 卒業生からのメッセージ
能開総合大卒業生の益々のご活躍を祈ります

土地・建物売買 仲介損害保険取扱い
(自動車、火災、傷害、年金)

有限会社 フジフミ

代表取締役 佐藤 文則

第13期運輸装置科卒

〒229-1137 神奈川県相模原市二本松2-45-1

TEL: 042-771-0021 FAX: 042-774-7724

ものづくりの 達人に学ぶ

自分の仕事

有限会社藤里木工所
代表取締役 及川孝一



昭和27年、来年はいよいよ中学校を卒業だ。進学する人、就職する人 私は迷った。勉強は嫌いだったが成績は普通だったと思う。今思うと自分も高校ぐらいは受かってたかもしれないと思うこともある。私は美術を勉強したいと思っていた。将来は彫刻家に成りたいと思っていた。小学校中学校の頃は図工が得意で学芸会の時などは大道具小道具を進んで担当していた。私の父親は生真面目な指物職人で終戦間際に召集され満州でソ連軍の捕虜に成りシベリヤに4年間虜留され、昭和23年12月に帰国してすぐ自分の仕事である指物の仕事をしていた。

昔、田舎では自分の山の木を切って移動製材を頼んで自分の所で製材していたものである。松、杉、栗、樺、何でも材料はあった。黒柿、槐の木、そんな材を自分で加工して(加工はもちろん全部手工具を使って)父親は依頼のあったお宅へ道具を自転車に積んでいって一週間も半年も通って生地加工から塗り仕上げ金具を付けて完成までやっていた。腕の良い職人と評判で仕事は切れることなく多忙でいたが、一日いくらの日当での仕事なのだから生活は楽ではなかったと思う。



金具の制作

そんな中で私は4人弟妹の長男で矢張り勉強よりも仕事をしてお金を得る方を考えたんだと思う。28年3月は中学校を卒業して4月に東京都台東区浅草光月町の指物屋に弟子入りをした。その工房には師匠の外4人の職人がいた。住み込みだが良く働く人達だった。師匠の家族は、四国出身だったが、なぜか職人達は石川県が二人、群馬県が一人、あと一人は四国で師匠の血筋の人だった。この人達はよく自分の故郷の自慢話で輪島塗の話、組み手の話、

建築の設計・監理で貢献する

(有)戸田 巧 建築研究所 TEL 029-252-2511
FAX 029-252-0811
〒310-0045 茨城県水戸市新原2-10-30
アリス7-79
E-mail: t_tada@pa.net-ibarakid.ne.jp
http: www.net-ibarakid.ne.jp/t_tada/
草地 恒(第32期建築工学科卒)

Voice 卒業生からのメッセージ
滄水会、新生能開総合大のご発展を祈ります

安藤輝男建築設計事務所

日本建築家協会会員 日本医療福祉建築協会会員

代表取締役 安藤 輝男

第9期建築科卒

〒862-0971 熊本県熊本市大江6丁目30番5号
TEL: 096-363-2841
FAX: 096-363-8625
E-mail: aao-ando@ms2.infbears.ne.jp



岩谷堂筆筒

材料のこと、ある時は取っ組み合いの喧嘩もあったが、よく仕事をしていた。工房に入って半年程でパートで売れる商品を私自身も作っていた。

昭和 32 年に郷里に戻ってからは父親と同じように、自転車に道具を積んで農家廻りをした。何を作るんでも、そこのお宅に有る材を見て木取りから手仕事である。先方様の要望する色々な物を作るために毎回勉強しなければならなかった。昭和 42 年に岩谷堂筆筒組合に加入し、この時は金具を作る人が一人で、その家族と手伝いの二人だけだった。組合員全従業員で生産する生地に付けるのは到底できない。その時、初めて自分でも金具作りをやろうと思い立ったのが昭和 45 年だった。自分の作った製品を自分で完成品にできるような職人に成らなければ駄目だ

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌)と思うようになった。妻を相手に鍛冶をしたり思い立ったら即実行した。この頃には、弟子が4人いた。

昭和 52 年から岩谷堂筆筒も伝統的工芸品の指定を受けようという話がでてからやっと昭和 57 年3月に通商産業大臣指定伝統的工芸品岩谷堂筆筒と認定を戴いた。

木が好きで、鉄が好きで、漆が好きで、木と話をしながら、鉄と話をしながら、漆と話をしながら、木にしる鉄にしる漆にしる、どの材も、自分より遙かに大先輩である。色々な形に変わっても何百年先までも、使い手の皆さんに喜んで戴ける様な作品を楽しみながら作っていけることが最高の喜びである。



企画のねらい

岩手県で筆筒創りの達人、及川 孝一氏に投稿をお願いした。もの作りの原点は何か、真の仕事とは何かを感じとって戴き、読者の仕事の指針にして戴ければと思います。

Voice 卒業生からのメッセージ

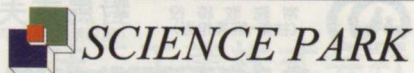
訓大→能開大→能開総合大を胸に **未来へ!**

代表取締役社長 **小路 幸市郎** (電気科 第17回卒)

衛 建平 (電気科 第21回卒)

野崎 隆 (運輸装置科 第26回卒 / 研究機械 第2回卒)

三浦 秀朗 (情報工学科 第31回卒)



デバイスドライバ開発のプロフェッショナル

サイエンスパーク株式会社

〒228-0024 神奈川県座間市入谷1-1538-11

TEL 046-255-2544 / FAX 046-255-0319

http://www.sciencepark.co.jp/

Voice 卒業生からのメッセージ

滄水会、新生能開総合大の益々の発展を祈ります

富崎・円城寺特許事務所

所長 **富崎元成** (弁理士)
(第7期機械科卒)

〒1105-0003 東京都港区西新橋1丁目13番4号

T・Sビル2階

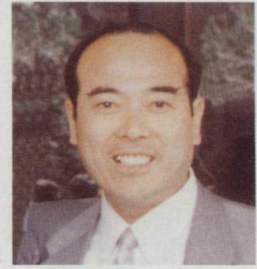
TEL: 03-3504-1305(代)

FAX: 03-3504-1306

ものづくり教育 の達人に学ぶ

技能五輪選手育成の取り組み

株式会社デンソー
技術技能研修部技能研修3 主任
杉浦 太



私が担当しております技能五輪は、“会社方針の一つである「世界一競争力のある製品づくり」を実現させるためには世界一の技術と技能がなくてはならない。その第一歩が技能五輪金メダリストの育成“という考え方で取り組んでおります。言い換えますと、世界一の技能を競い合う「技能五輪」への参加を通じて、基礎技能のレベルアップを図ると共に、高度熟練技能を要する職場の中核となり得るテクニシャン又は現場技術者を育成することが技能五輪の役割・使命なのです。



エキスパート会議中(左から2人目)

現在、訓練しております職種は、機械組立、精密機器組立、電子機器組立、メカトロニクス等の8職種で、その内容は、単に技能だけにとどまらず体力、精神力の向上も図り、技能五輪選手として、心・技・体を兼ね備えた人格の形成を目指しております。例えば、10時間で走破する60km強歩訓練、そのための備えとしての日々の早朝ランニング、人前で自分の言いたいことがはっきり言えることを目指したスピーチ訓練、各種の合宿研修等の行事を実施しています。

全国大会への参加は、第1回から昨年(第37回

まで述べ489人が参加し、82人が金メダルを獲得し、この内の43人が国際大会に参加し、14人が金メダルに輝いております。

また、技能五輪修了者は、当社の独自の製造設備を製作する工機部門、新製品を試作する試作部門、更に基礎研究所などの職場で多に活躍しております。

私は、第7回全国大会でフライス盤職種4位に受賞し、その後に指導者となり、全国大会、フライス盤職種で4人の金メダリストを誕生させましたが、その内、2人が国際大会で銀メダリストになりました。し

Voice 卒業生からのメッセージ
能開総合大卒業生の益々のご活躍を祈ります。

茶 令(右)大塚製茶
(株)お茶の佐野森園 代表取締役
大塚 聡
第5期金帯接科卒
銘茶やぶきた製造直売
〒427-0111静岡県島田市阪本3407番地
電話 (0547) 38-1318(代)
FAX (0457) 38-1313番
直売所 (0457) 38-2107番

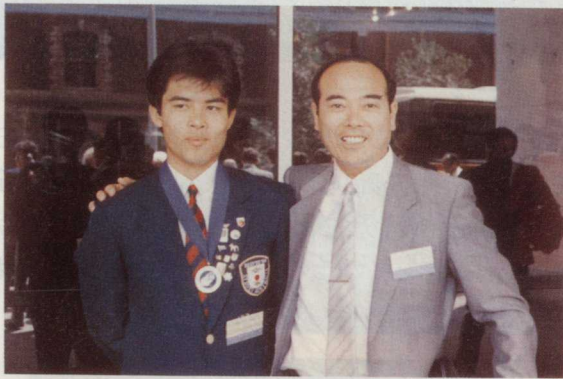
Voice 卒業生からのメッセージ
滄水会の益々の発展を祈念いたします



常務取締役
(技術・営業担当) **對馬克夫**
(第13期溶接科卒)

丸八鐵工建設株式会社

工場: 〒039-3524 青森市滝沢字住吉12
TEL: 017-726-0808 (代) FAX: 017-726-4108
本社: 〒030-0812 青森市堤町2-21-8
TEL: 017-734-3945 (代) FAX: 017-734-3908
仙台事務所: 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18
(5イーストアーク本町ビル903号) TEL/FAX 022-213-9730
東京事務所: 〒102-0072 東京都千代田区板橋橋2-11-5 (衆昇ビル)
TEL/FAX 03-5210-3508



国際大会(シドニー)金メダリストと私

かしながら、指導員としては“国際大会で金メダル獲得”というのが夢です。4人目が1988年にシドニーで開催された国際大会に参加した際には、私も技術エキスパート(審査員)として初参加でき、諸外国の審査員から、私が“現場の経験も含めこの道24年の経験をもっていた”ということから大いに信頼され、競技運営から採点審査まで全てを任されました。このようなことも幸いして、苦節16年目にして念願の国際大会で金メダリスト(世界一)を誕生させることができました。

閉会式の表彰で選手が一番高いところに立った時、ビデオカメラで撮影していた私の目は感激の涙で全てが見えなくなってしまったのです。このことは今でも鮮明に覚えております。その後も国際大会の技術エキスパートとして参加し、オランダ大会と台湾大会でいずれも金メダリスト(3回連続)を誕生させることができました。

私の五輪選手を育てる基本的な考え方は、“情熱を持って指導し、選手自身に「必ず金メダルを」という強い気持ちにさせると同時に目標に向かって選手、指導員が一体になること”です。この考えは、これま

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌)での指導経験から得たもので、今後もこれで良いと確信しております。まさに甲子園の高校野球の監督と選手の様な感じなのです。

現在は、直接指導は後輩に道をゆずり、7年前から全職種のみとめ役として、国際大会では、選手及び技術エキスパートのサポート役として参加し、3回連続金メダリストを誕生させることができました。

おわりに、知識は本などの書き物で得ることが出来ますが、技能はモノを具現化するための技であり、訓練の積重ねと体験による体得であって簡単に“まね”ができないと思います。「努力なくして結実なし」「一芸は万芸に通ず」これが私の信条であります。



企画のねらい

株式会社デンソーの杉浦 太氏には、日本の産業を支える技能者を国際技能五輪の金メダリストとして育てあげた経験に基づき、もの作りに必要な人財教育についての熱い思いを投稿戴いた。



滄水会(本部)からのお知らせ

滄水会会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

皆様ご承知の通り、滄水会の母体であります当大学校は、1961年(昭和36年)4月に中央職業訓練所(中訓)として創立以来、職業訓練大学校(訓大)(1965年)、職業能力開発大学校(能開大)(1993年)、職業能力開発総合大学校(能開総合大)(1999年)と度重なる校名改称と組織改正を経ながら本年で40年目を迎えました。この間、1965年(昭和40年)3月に第一期生が卒業して以来、本年3月に第36期生が卒業するに至り、現在、本校長期課程を卒業した同窓生総数は5450名となりました。

●滄水会新役員の紹介

昨年(1999年)10月30日の総会におきまして、滄水会役員の改選が行われました。今後3年間、下記の役員により滄水会本部の運営をさせていただきます。皆様の暖かいご支援を賜りますようお願い致します。

会長

永守重信(1電3期) 日本電産株式会社 取締役社長

副会長

森嶋 武(板金3期) 北海道職業能力開発協会 会長

富崎元成(機械7期) 富崎・円城寺特許事務所 所長

日向輝彦(溶接8期) 職業能力開発総合大学校 産業機械工学部 助教授

理事

宮本義三(木工6期) 中央職業能力開発協会 教育訓練支援委員長

片岡義博(鋳造7期) 職業能力開発総合大学校 生産機械工学部 助教授

赤松 明(木工10期) 職業能力開発総合大学校 造形工学科 助教授

鈴木孝廣(2電10期) JUKI(株) 経営企画部 専門部長

前川秀幸(建築15期) 職業能力開発総合大学校 建築工学科 講師

松野史幸(福祉23期) (株) エックエッジナルグ 研究開発室

●滄水会本部活動報告滄水会賞授与式の挙

平成12年3月24日、平成11年度能開総合大卒業式に引き続き、第5回滄水会賞授与式を挙

守会長より、下記の受賞者に賞状と記念メダルが贈られるとともに長期課程卒業生および研究課程修了生全員に祝辞が述べられました。また、続いて開催された卒業祝賀パーティーでは、滄水会より寄贈した二斗樽を囲んでの鏡割りが盛大に行われました。



第5回 滄水会賞受賞者

熊谷紀彦	産業機械工学科
山田知広	生産機械工学科
内迫彰英	電気工学科
中谷 努	電子工学科
河邊ふくゑ	情報工学科
金木邦彦	建築工学科
藤原義康	造形工学科
二宮敬一	福祉工学科

●住所変更等のご連絡のお願い

滄水会ニュースの送付先及び名簿作成時の正確性を維持するため、会員の皆様の住所変更等がございましたら下記までご連絡をお願い致します。

滄水会事務局

〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1

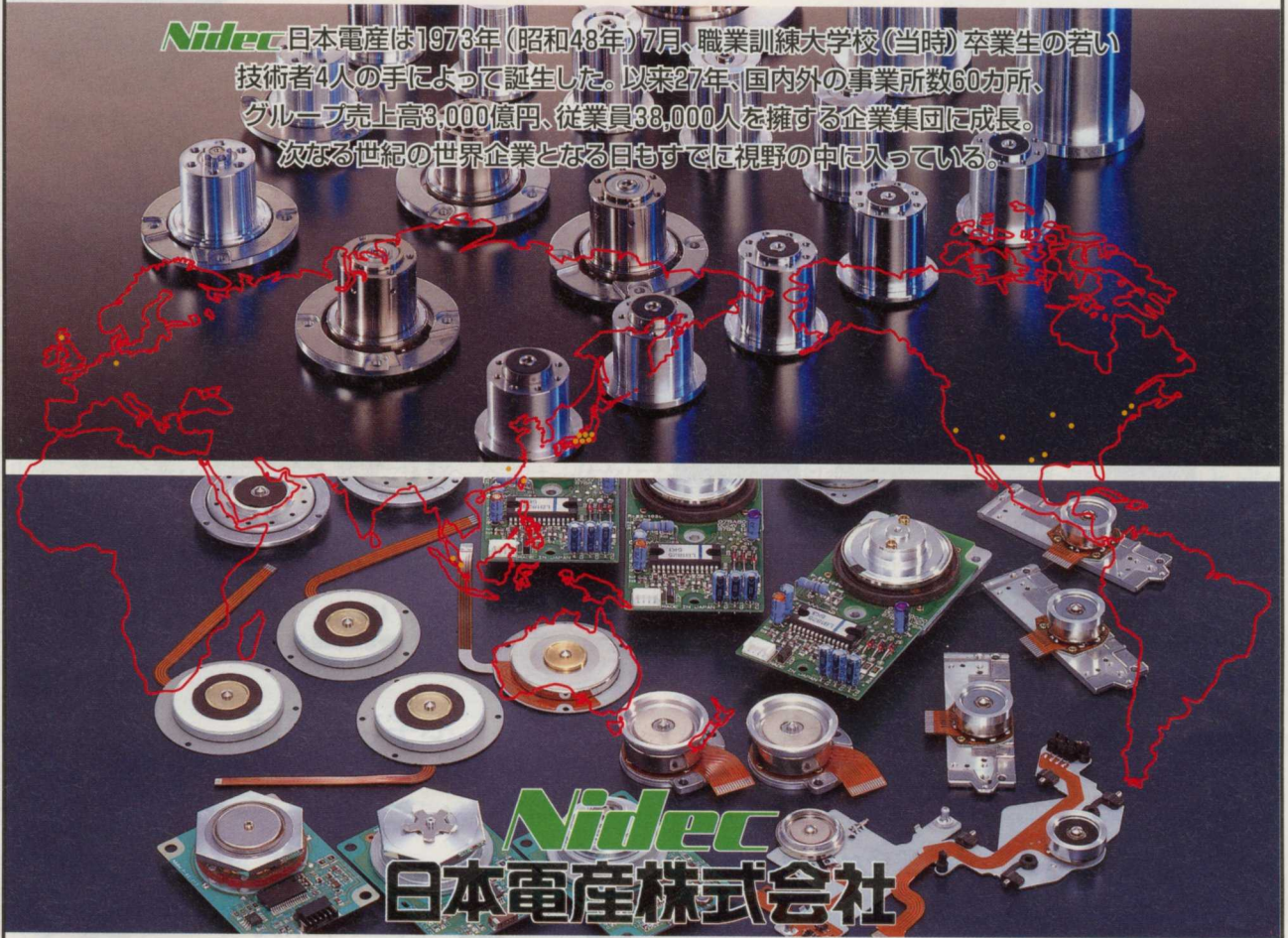
職業能力開発総合大学校内 滄水会

FAX 042-763-9267

E-mail:sousui@uitec.ac.jp

職業能力開発総合大学校の卒業生によって生まれた 世界に冠たる超精密駆動技術の企業がここにある!

Nidec 日本電産は1973年(昭和48年)7月、職業訓練大学校(当時)卒業生の若い技術者4人の手によって誕生した。以来27年、国内外の事業所数60カ所、グループ売上高3,000億円、従業員38,000人を擁する企業集団に成長。次なる世紀の世界企業となる日もすでに視野の中に入っている。



京都市右京区西京極堤外町10 (〒615-0854)

代表取締役社長 永守重信 (第3期電気科卒)

編集後記

これまでの滄水会ニュースはOBを中心とする近況報告的な要素が強かった。しかし、今後の3年間は企業に就職したOBの取材を中心に現在の日本のビジネス界の抱える問題を掘り下げ、今(現在)を見つめてみたい。また、大いに活躍されているOBの姿を通じ社会に職業能力開発総合大学校の存在意義を問いただし、その使命の重要さと認知度を上げ、真に社会に役立つ教育機関としての位置を確立する。との溢れそうな思いから滄水会ニュースの特集として、「起業家・企業家・ものづくりに学ぶ」を企画し、OBをはじめ第一線で活躍されている方々に投稿いただきました。

しかし、企画立案当時に考えていた事の半分も表現出来ていないことに愕然とし、投稿いただいた熱き思いをもう少し巧く構成できなかったのかと反省することしきりです。読者におかれましては、忍耐をもって完読していただけることを切にお願いします。

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌)編集委員：赤松 明・鈴木孝廣 イラスト：赤松 茜

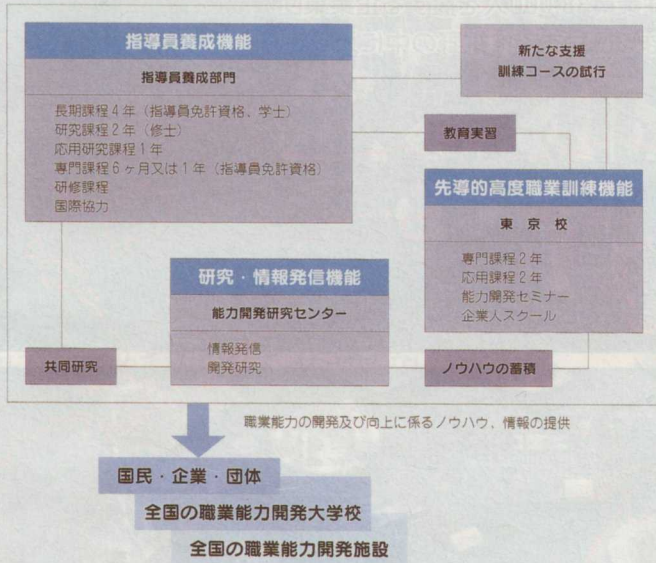
滄水会

発効日：平成12年7月1日 発行者：滄水会会長 永守重信

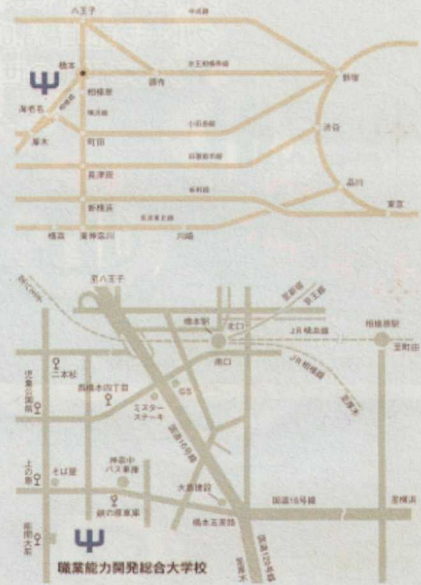
〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1

FAX 042-763-9267 E-mail:sousui@uitec.ac.jp

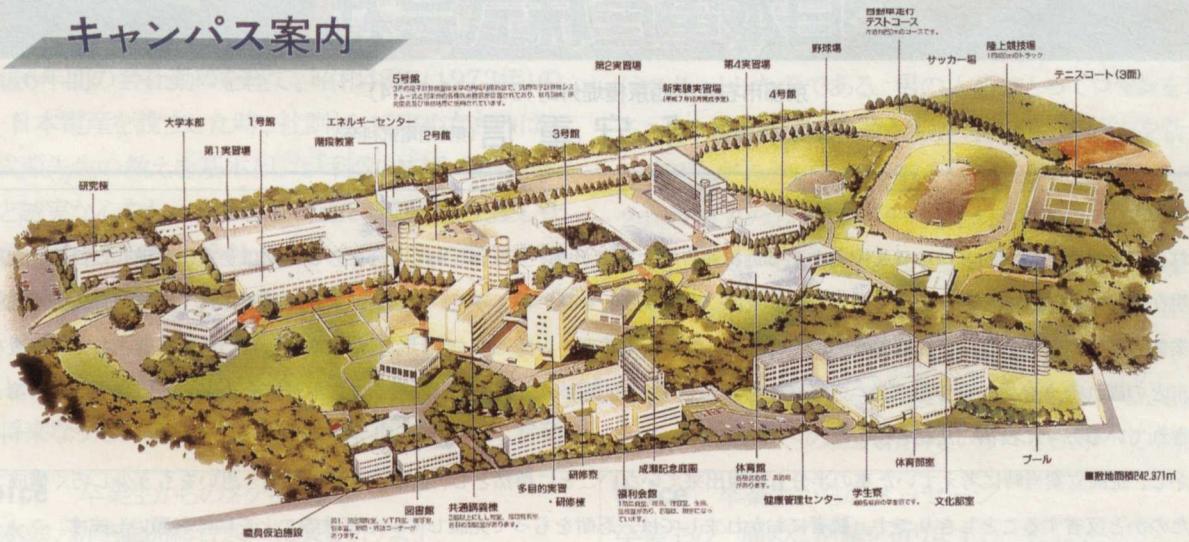
職業能力開発総合大学校の3つの機能



ACCESS



キャンパス案内



〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台 4-1-1

学生課; TEL 042-763-9023/042-763-9024

FAX 042-763-9214

受験生テレホンサービス; TEL042-763-9249

ホームページ; <http://www.uitec.ehdo.go.jp/>